

ハイパフォーマンススポーツにおける種目評価投資政策の検討

～オーストラリア・イギリスの事例～

Targeted Investments in High Performance Sport funding:

The Cases of Australia and United Kingdom

スポーツクラブマネジメントコース

5016A313-1 松井 陽子

研究指導教員：間野義之 教授

1. 緒言

近年、オリンピックや主要国際大会での活躍を目指す、いわゆるハイパフォーマンススポーツ（スポーツの卓越性《Performance Excellence》を目指すスポーツ活動）（文部科学省，2015）について，強化戦略を立てる国が増加し（Oakley ら，2001），オリンピックにおけるメダル獲得レースは徐々に激化してきた．原田（2005）は「今やオリンピックにおいてメダルを取ることは，国の威信やアスリートの商業的価値云々だけではなく，一国の経済をも左右する大仕事になった」と述べている．こうしたメダルレースの激化により多額の国家予算を投入する国が増え，予算を効率的に使用し，成果を出すことはそれらの国々にとって必然的な命題となっている．

日本も例外ではなく，2020 年東京オリンピックを控え，スポーツ行政予算の概算要求額は倍増した（中村，2015）．2012 年に策定されたスポーツ基本計画には，夏季オリンピックにおける金メダルランキング 5 位以上，過去最多を超えるメダル数の獲得を目標とする旨が記載されている．この目標を達成するためには戦略的かつ効率的な予算の配分が必要である．

2. 先行研究の検討

De Bosscher ら（2008）はハイパフォーマンススポーツにおいて，競技に優先順位をつけて資金投下する競技団体を絞る Prioritization 方策は今や多くの国で行われている方策だと指摘している．これに加え，Sam（2012）はニュージーランドやオーストラリア，イギリスといった国の予算配分に関する政策を「Targeted Investments」と表しており，つまり，各競技種目とそれを統括する競技団体を様々な観点から評価し，ターゲットを決めて投資をするという「種目評価投資」を行う政策であると表現している．この種目評価投資政策は，ただ優先順位をつけるだけではなく，情報公開と説明責任を伴い，各競技団

体の「パフォーマンス」の評価に基づいて資金配分が決定される手法である．Sam（2012）はニュージーランドの事例についてこの種目評価投資政策の課題を述べているが，オーストラリアやイギリスにおいてどのような状態であるかについては明らかになっていない．そこで，この両国の種目評価投資の政策実施(policy implementation)の違いを検討することは有益であると思われる．

3. 研究の目的

本研究は，オーストラリアおよびイギリスのハイパフォーマンススポーツに対する種目評価投資政策において共通点または相違点と結果の差異を調査検討し，種目評価投資政策実施の際の課題を明らかにすることを目的とする．

4. 方法

(1)対象国とその選定理由

本研究では先行研究と現状の問題を踏まえ，種目評価投資政策について研究を進めるにあたり，オーストラリアおよびイギリスの事例について調査し，比較検討する．対象国の選定にあたっては，2020 年東京オリンピックを控えた日本の政策立案の参考となるよう，近年自国で夏季オリンピックを開催していること，なおかつ，情報が一般に公開されていること，さらに，筆者が判別可能な英語または日本語で記載されていることを条件とした．

(2)分析の視点

検討に当たっては入手可能だった資料を鑑み，以下の①～⑤の視点から分析を試みた．

①組織体制②ハイパフォーマンス戦略と投資原則③投資プロセス④競技団体への予算配分 n とメダル獲得数の推移⑤予算総額とメダル獲得数の推移

(3)資料収集方法と手続き

調査にあたっては，各国政府およびスポーツ統括団体のオフィシャルサイトにて 2016 年 9 月～2017 年 1 月に公開されていた資料，記述から情報を収集

した。

5. 結果と考察

オーストラリアとイギリスは一見すると類似した政策をとっているが、その結果は対象的であった(図1)。

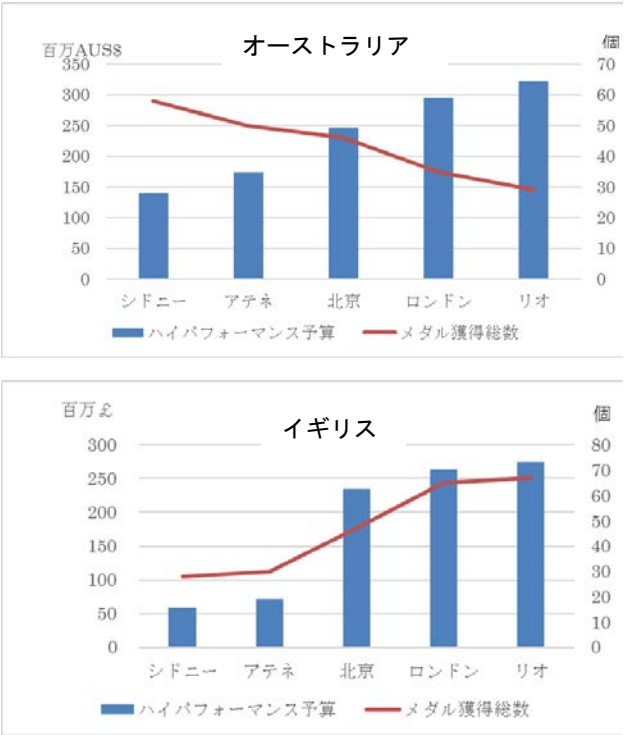


図1. 競技団体に配分されたハイパフォーマンス予算とオリンピックにおけるメダル獲得数の変遷

その原因として、それぞれ発表されている競技団体評価の観点を比較すると、イギリスは各競技特有の事情を考慮せず、一律の評価基準を採用しているのに対し、オーストラリアでは評価観点が相対的で、各競技団体の前年度のパフォーマンスに対してどうだったかという視点が取り入れられていることが推定される(表1)。

表1. オーストラリアおよびイギリスにおける投資基準の比較

	オーストラリア	イギリス
対象とする大会	「Australia's Winning Edge」(オーストラリアの強化戦略)がターゲットとする国際競技大会	オリンピックおよびパラリンピック
投資額の決定の要因	・放送収益や投資効率を含む競技団体の資金状況を総合的に考慮 ・試合機会やメダル獲得の難度の違い、団体競技と個人競技のニーズの違い、競技人口やアスリートパスウェイの違いを含む競技団体の国際的競争環境を考慮	エビデンスに基づいた将来的なメダル獲得の可能性

つまり、イギリスはメダル獲得可能性を評価しているのに対し、オーストラリアはメダル獲得に向けた進捗を評価しているといいつつも、実際、メダル獲得可能性によって評価していないため、結果に差がでているのではないかと推察できる。

このように、一口に種目評価投資政策といっても、実施方法によって結果に大きな差があることがわかった。

6. 結論

オーストラリアおよびイギリスのハイパフォーマンススポーツに対する種目評価投資政策において共通点または相違点と結果の差異を調査検討し、日本における政策立案に資するため、種目評価投資政策実施の際の課題を明らかにすることができた。

7. 本研究の限界と実践への提言

本研究ではオーストラリアおよびイギリスの2か国のみの調査にとどまっており、この結論がすべてを網羅しているわけではなく、また、公開されている情報のみで得られた結果であるため、未知の情報が結果を覆す可能性は否定できない。特に、1996年アトランタオリンピックに向けたオーストラリアの予算資料は完全な形で集めることができず、自国開催であったシドニー大会以前の情報と比較できなかった点は課題として挙げられる。

また、本研究においては「オリンピックにおけるメダル獲得数を目標とし、成果とした場合」と限定し、論じたが、スポーツの意義や価値を考える上で、この目標および成果設定が妥当かどうかについては言及していない。この点については様々な立場から議論があつてしかるべきと考える。

しかしながら、本研究において一端を明らかにした種目評価投資政策はハイパフォーマンススポーツにおいて今や世界的なスタンダードになりつつあり、今後日本で導入される可能性も高いだろう。政策立案にあたっては先進事例を慎重に考慮し、それぞれの違いを把握した上で、投資効率の最大化を図るために必要な方策を検討するべきである。